公益財団法人黒潮生物研究所
令和６年度（第２６期）
事業計画

公益財団法人
黒潮生物研究所

公益財団法人 黒潮生物研究所

令和 6 年度（第 26 期）事業計画（案）

１．　調査研究

１－１．調査研究の実施

財団所属の専門研究員による研究や委嘱研究として、黒潮流域の生態系の構造や機能、特性などを把握し、生物多様性情報や長期的な環境変動の資料を得るため、四国沿岸域を主とした黒潮流域における生物相や分布に関する調査を実施し、科学的な情報・資料を広く収集し整理する。

Ａ．黒潮流域の生態系に関する自然史情報および生物多様性情報の収集と整理

黒潮流域の生態系の構造や機能、特性などを把握し、生物多様性情報や長期的な環境変動の資料を得るため、四国沿岸域を主とした黒潮流域における生物相調査や生物分布調査を実施し、科学的な情報・資料を広く収集し、整理する。令和 6 年度に予定している主な項目は以下の通りである。

１）黒潮流域における有藻性イシサンゴ類相および分布特性の把握（継続）
２）黒潮流域におけるウミトサカ類（八放サンゴ類）の分布調査（継続）
３）黒潮流域におけるクラゲ相の解明と出現動態の把握（継続）
４）四国西南海域の宝石サンゴ周辺の環境把握（継続）
５）四国南西部における海洋魚類相の把握（継続）
６）宿毛湾・足摺岬沖の宝石サンゴ生息環境の調査（継続）
７）黒潮流域の海岸動植物相の把握（継続）
８）黒潮流域を中心とした深海生物相の把握（継続）
９）黒潮流域における微細藻類相の把握（継続）
10）黒潮流域における海綿動物相の把握（継続）
11）黒潮流域における十脚甲殻類相の把握（継続）
12）高緯度サンゴ群集域におけるイシサンゴ共生生物群集の把握とモニタリング（継続）

Ｂ．分類学的研究

分類学的検討や系統学的検討が十分でない分類群および種について外部研究機関と協力して研究を進め、資料・情報の収集と整理、記載を行う。令和 6 年度に予定されている研究テーマは主に以下の通りである。

１）日本産有藻性イシサンゴ類の分類学的検討（継続）
２）日本および国外産八放サンゴ類の分類学的検討（継続）

３）日本産宝石サンゴ類の分類学的検討（継続）
４）日本産後鰓類（ウミウシ類）の分類学的検討（継続）
５）日本および東南アジア産立方クラゲ類の分類学的研究（継続）
６）日本におけるクラゲ類の分類学的研究（継続）
７）日本産海綿動物類の分類学的研究（継続）
８）底生無脊椎動物の巣穴に共生する生物群集の分類・生態学的研究（継続）

Ｃ．生理生態研究

海産無脊椎動物および魚類を主とした海洋生物の生理および生態に関する基礎的知見を収集するための研究を引き続き進める。令和 6 年度に予定されている主な研究テーマは以下の通りである。

１）有藻性イシサンゴ類の繁殖生態に関する研究（継続）
２）有藻性イシサンゴ類の幼生加入に関する研究（継続）
３）有藻性イシサンゴ類の白化からの回復メカニズムの解明（継続）
４）八放サンゴ類の摂餌生態・栄養生態に関する研究（継続）
５）クラゲ類の生活史および生態学的研究（継続）
６）サンゴの蛍光タンパク質に関する研究（継続）
７）サンゴのアレルギーに関する研究（継続）

Ｄ．保全手法に関する研究

海域の生物資源や沿岸域環境、あるいは生物多様性等の保全などに資することを目的とした基礎情報の収集や保全手法の検討や開発に向けた研究を引き続き進める。令和 6 年度に予定している主な研究項目は以下の通りである。

１）有藻性イシサンゴ類の増殖に関する研究（継続）
２）日本産宝石サンゴ類の増殖および保全手法に関する研究（継続）
３）ライブロックリサイクルに関する研究（継続）
４）沿岸生態系モニタリング手法の開発研究（新規）

Ｅ．その他の研究（生物科学、応用研究など）

１）有藻性イシサンゴ類の染色体観察手法の開発および染色体の研究（継続）
２）日本の太平洋沿岸域におけるサンゴ礁形成の堆積学的研究（継続）
３）海藻類の増養殖について（継続）
４）海藻養殖場における生物多様性の評価に関する研究（継続）
５）マングローブ域に隠された生物生産システムの解明（新規）

１－２．研究活動支援および研究ネットワークの構築

財団が有する施設・設備や情報（黒潮生態系等に関する知見や情報、資料）、および研究協力体制を活用し、外部研究機関や外部研究者等への研究支援・協力を行う。これによって国内外におけるフィールドサイエンスを中心とした研究ネットワークの構築、および研究所の利用促進と利用拠点化を図り、海洋生物研究の推進に寄与する。また、次世代の研究者、地域と密着した研究者の育成を図ることを目的とした研究助成を行う。主な事業内容は以下の通りである。

１）外部研究者等への研究支援

外部研究者等への情報や標本の提供、研究所利用者への施設・設備の開放、研究所周辺地域における調査実施の際のコーディネートやサポートなどの研究支援を行う。令和 6 年度は外部研究者を 5 名程度招聘し、重要分類群（クラゲ・魚類・甲殻類・棘皮動物・海藻など）の調査を行う予定である。

２）一般市民への調査研究支援（技術指導、発表の場の提供）

市民が主体の調査研究活動に対する専門的なアドバイス、技術指導、また機関紙等での発表の場の提供、市民科学の場の創出等を行う。

３）研究助成

令和 6 年度は 20 万円 3 件の研究助成を行う予定である。

１－３．黒潮生態系に関する生物多様性情報および自然史資料の収集整理・共有

調査研究活動で得られた科学的知見、生物多様性や自然史に関する幅広い情報・資料（映像、写真、標本など）を収集・整理し、所内展示物、出版物、ホームページ、SNS などを利用した情報公開や情報共有に向けた取り組みを引き続き進めることで国内外の海洋生物研究の発展に寄与する。また、そのために必要な施設設備の整備を必要に応じて行い、資料の収集・保管・整理、展示、ホームページでの公開等の機能を高める。

１）四国南西部の海洋生物図鑑の作成（継続）

２）四国東部の海洋生物図鑑の作成（継続）

１－４．学術誌の刊行

黒潮生態系に関する科学的情報の公開、調査研究のアウトリーチの一環として、研究報告を掲載した英和文学術誌「Kuroshio Biosphere」を年 1 回以上発行する。平成 25 年度より冊子体発行から PDF による オンライン発行に移行しており、オープンアクセスでの無料閲覧可能。冊子体については部数を減らして印刷し一部交換図書として配布する。

機関誌「CURRENT」を年に 4 回（季刊）発行する。本誌は国内外の研究機関や関係各所に配布予定で購読も可能である（寄附者・寄附団体には無料配布す

る)。

２．自然環境保全

気候変動緩和や気候変動適応に関連した、生物多様性の把握や地域の自然環境の適切な保全を総合的に推進するため、保全活動を行う自治体及び団体への協力支援や保全に関するネットワーク構築や運営などを行う。

２－１．沿岸環境および生物多様性保全等を目的とした活動や事業への協力支援

地域の自然環境保全活動の実施や、活動の円滑化・活性化などに寄与するため、国や関係行政、市民組織、地域活動団体などが実施する海域資源の保全に資する活動や事業に参加、協力し、あるいは取り組みの企画、実施、支援を行う。これにより、調査研究活動で得られた科学的知見や情報を広く社会に還元し、所属する研究員等が有する専門知識や技術を自然環境の保全に向けた取り組みに活用する。

地域の沿岸生態系の生物多様性保全として、徳島県海陽町において地元漁師さんと協力支援して、浮き柴漬けの試験を実施する。同町竹ヶ島にある廃校小学校施設を拠点にして、取組みの支援、地域の保全活動、周辺の生物多様性の知見を集積する。

１）サンゴモニタリングの協力支援（継続）
２）オニヒトデ駆除体制の構築（継続）
３）気候変動適応における広域アクションプラン策定事業協力（継続）
４）徳島県海陽町での浮き柴漬けによる生物多様性保全の取組み（継続）
５）高緯度サンゴ群集域（四国）の保全に関する取組み（継続）

２－２．生物多様性保全、沿岸環境保全のためのネットワークの構築と運営

沿岸域の生物多様性や環境保全に関わる情報共有と活動ネットワークの構築と運営に向けた活動を行う。これまで通り足摺宇和海国立公園保全連絡協議会の会員として国立公園地域の保全に関わっていく。

令和 3 年度に設立したこうちサンゴ沿岸生態系適応ネットワークは、高知県全体の有藻性イシサンゴ類を中心とし沿岸海域の適応及び保全に関するもので、研究所としてその運営を引き続き担う。ネットワークの構成メンバーは主に行政機関や水族館で、沿岸生態系に関するモニタリングや情報共有を行う。（継続）さらに、こうちサンゴ沿岸生態系適応ネットワークに加えて、高緯度サンゴ群集域気候変動適応ネットワークの事務局運営及び四国沿岸域の生態系に関するモニタリング情報の収集と共有を行い、気候変動に関する諸問題について広域連携を広げ、アクションプランの取り組みの継続や普及啓発活動を実施する。

３．普及啓発

調査研究活動で得られた科学的知見や自然史情報・資料等を活用した普及啓発活動を行う。これにより黒潮生態系に関する科学的理解に向けた啓発、科学教育、海洋教育の場としての科学的対話の機会創出、地域における生物多様性保全、自然環境保全に関する意識の高揚、地域における自然教育、海洋教育、科学教育等の教育ネットワークの構築などを進める。

３－１．自然史関連資料・生物多様性情報の活用

普及啓発分野における自然史関連資料や生物多様性情報の普及啓発活動への活用として、研究所内での公開展示、地域イベント等でのブース展示、企画展や写真展等の開催などを行う。また、教育機関やその他公共機関あるいは、マスメディア等へ自然史関連資料の貸出や提供等を引き続き行う。

３－２．海洋生物や沿岸環境に関する科学的対話機会の創出

地域の自然環境や保全活動、生物多様性等に関する講演等を企画・開催し、研究者と市民との科学的対話の機会をつくる。令和 6 年度は以下のような取り組みを行う予定である。

・講演会、自然観察会の実施
・一般参加型の標本・図鑑づくり
・食育イベント（普段食べない生物を食べる）の開催
・リーフレット（高緯度サンゴ群集について）の作成（継続）

３－３．次世代の海の研究及び社会活動の担い手育成の推進

海辺の自然を利用した教育プログラムの提案・企画および開催や学校教育、社会教育の場への講師の派遣、自然教育のネットワーク構築に向けた取り組みを行うことで、地域における海辺の環境教育、社会教育の推進を図り、海洋生物研究の振興につなげるとともに、次世代の担い手の育成に寄与する。令和 6 年度は以下のような取り組みを引き続き進める。

・当研究所主催のサマースクール（小学生対象）
・自然教育、科学教育プログラム企画・開催および講師派遣（小学生から大人を対象）
・インターンシップ（高校生・専門学校生・大学生・大学院生・一般を対象）
・沿岸生態系のモニタリング勉強会と現地調査（モニタリングの担い手の育成）

３－４．自然史系博物館等との連携体制の構築

地域内外の水族館や自然史系博物館等と協力した取り組みの実施を通じて、地

域生態系に関する普及啓発、自然史資料の活用、情報発信などを行い、連携体制を構築する。

３－５．その他の情報発信

ホームページ、ブログ、SNS の運用、動画配信、新聞や雑誌等での記事の発表などを通じて、黒潮流域の自然や地域生態系、海洋生物などに関する情報や話題、調査研究活動や事業で得られた知見等を広く発信する。また、マスコミ等からの各種問い合わせ、取材対応などにも可能な限り対応する。

４．施設・設備の整備と運用等

調査研究および保全、普及啓発などの活動の方向性や重点化との整合性、また施設・設備の整備の必要性・緊急性を十分に精査したうえで行い、取得、更新、改修等を進める。また、調査研究、普及啓発、保全の各分野において研究所施設の利用促進を図り、研究活動の活性化、公益性の促進、事業の効率化を進めるために必要なもの、その他に職員の潜水等による必要施設、安全や健康維持に必要なものを適宜導入する。研究棟及び研修棟の修繕や器具備品の買い替えは適宜行う。

１）タンクチャージ施設の設置検討（新規）

これまで研究所のある同町にて、タンクチャージサービスを利用して、調査用の空気タンクを確保してきた。しかし、サービス終了に伴い、研究所でのタンクチャージ施設設置を検討する。